

TOEFL 勉強法解説

内田滋穂里

2013.10.7

目次

1	初めに	1
2	TOEFL の勉強を始める前に!	2
3	リーディング	2
3.1	リーディング概要	2
3.2	英文読解・英文速読	2
3.3	実践	3
4	リスニング	3
4.1	リスニング概要	3
4.2	リスニング	4
4.3	実践	4
5	リスニング・ライティングの概要の前に!	4
6	スピーキング	5
6.1	スピーキングの概要	5
6.2	スピーキング	5
6.3	実践	5
7	ライティング	5
7.1	ライティングの概要	5
7.2	ライティング	6
7.3	実践	6
8	最後に	6
9	おまけ	6

1 初めに

TOEFL とは、ETS によって提供されている大学レベルの英語を使用および理解する能力を測定する英語試験のことで、インターネット接続によって行われる iBT(リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの 4 技能を測る) 方式とペーパーで行われ、大学などで団体受験が可能な cBT(リーディング・リスニングの 2 技能を測る) 方式に分けられる。TOEIC がビジネス向けの英語検定であるのに対し、TOEFL

は語学留学ではなく海外の大学へ専門分野に関する勉強の為の留学を目的とした人向け、つまりアカデミックな分野に進もうとしているもしくは進んでいる人を対象にしたものです。その為、一般に TOEIC より難しいとされているようです…。(この辺りは各個人の主観によるので断言はできないのですが。)

もし真剣に海外留学を考えている方がいるなら、専門の塾に入り TOEFL 専用の勉強をお勧めしますが、編入試もしくは院試で TOEFL が求められるので、足を引っ張らない程度に点数が取ればよいという考えの方でしたら、この内容が少しは役に立つかと思います。また私が試験を受けたのは iBT 方式のテストですので、cBT 方式を受ける予定の方は、リーディング・リスニングの部分が多少参考になるのではないかと思います。ちなみに、私はこの後述べる勉強法を実践して、最低 40・最高 61 くらいのスコアをとりました。61 くらいとれていれば院試でも満足らしいので、たぶんやってみる価値のそこそこある勉強法なのではないかと…思います。

2 TOEFL の勉強を始める前に!

TOEFL の勉強を始める前に、まず現在のあなた自身の英語能力を客観的に知る必要があります。ですので、何でもよいので(英検でも TOEIC でも OK です)外部の試験を受けて自身の英語に関するポテンシャルを測ってください。ある程度の基礎の英語力が無いと今後紹介する勉強方法がきついかもかもしれないので、ここの部分をしっかり見極めることを強くお勧めします。大体、TOEIC で 550 超えていれば、問題なくここで紹介する方法を実践できると思います。それに達していらっしゃらないければ、本科入学の折に購入したはずの「Forest(桐原書店)」を 2 週もしくは 3 週すれば問題ないと思います。

また、TOEFL はアカデミックな単語を覚えている必要があるなので、それ専用の単語帳をやることをお勧めします。私が使用したのは「TOEFL TEST 英単語スピードマスター (J リサーチ出版)」です。

ですが忘れないでほしいのは、ある難しいアカデミックな単語がわかったとしても、その前に当たり前の基礎単語を知らなければ文章は読めません。なので、高校生向けの基本的な単語帳をマスターしておくとうごく勉強がしやすくなります。お勧めは「DUO3.0(IPC)」です。付属 CD でシャドウイングするとスピーキングの訓練にもなります。

また、一度 TOEFL テストがどのようなものなのかを知るのにお勧めなのが「はじめての TOEFL テスト完全対策 (TOEFL iBT 大戦略シリーズ) (旺文社)」です。iBT の形式で一回分の模試が体験できます。完全日本語の対訳つきです。学校の図書館にも入っているなので、ぜひこれを一度やって TOEFL の問題形式を体験してみてください。

3 リーディング

3.1 リーディング概要

試験時間は 60~100 分。約 800 語程度のアカデミックな内容の英文を読んで 12~15 問程度の設問に答えます。マークシート方式で 4 つの選択肢が与えられるタイプの問題と、パソコンの特性を利用した問題の 2 パターン存在します。(ドラックして正しい答えと間違った答えを振り分ける.etc) 時間配分としては、1 パラグラフ 20 分が理想です。

3.2 英文読解・英文速読

正直なところ、高専での英語の授業で読んでいる英文の量が非常に少ないので多読をお勧めします。ここでポイントとなるのが 英文読解というものが必ず日本語に訳した上で内容を理解する行為ではないということです。逐一、英語を日本語に訳しそして英文を理解する、となると時間がかかるうえに、必ずしも正確な読みができるわけではありません。何故かという、英文読解で重要なことは、英文の構造を正確に理解することだからです。構造が違えば文の意味するものは変わってきます。文の意図を正確に

読み解くためには文の構造、つまり文法を、きちんと把握していなければならないのです。まとめると、速度と精度を上げるには、英文の構造を理解し、出来るだけ和訳を挟まず英文を理解していくことが重要になります。

英文の読書量をあげつつ、重要な基礎英文法を学ぶのにお勧めなのが「ビジュアル英文解釈 (駿台文庫)」です。これを一通りこなしたのならば、アカデミックな文章に慣れる為に図書館に入っている旺文社の TOEFL iBT 大戦略シリーズのリーディングを読むのも良いかと思います。(量が少なめなので肩慣らしにはちょうどよいです)

英文読解に自信があるのでしたら、「テーマ別英単語 ACADEMIC 中級〈01〉人文・社会科学編 (Z 会)」「テーマ別英単語 ACADEMIC 中級〈01〉自然科学編 (Z 会)」を読むのも良いと思います。この本は長文読解だけでなく学術用語も学べ、ついでに教養も身に付けられます。筆者の方も TOEFL の勉強を意識して書かれたものなので、選ばれている話題の中身も興味深いです。

3.3 実践

上記のような勉強をある程度こなしたら、実践あるのみです。TOEFL の公式問題集もしくは、TOEFL のテストを再現した問題集を解きまくりましょう! ここで重要になるのが問題の解き方です。最低でも 2 回、出来れば 3 回同じ問題を解きなおしてみてください。

まず 1 回目を試験のようにおこなう ことです。必ず、時間制限を設けます。このとき辞書は当たり前ですが、使用してはいけません。解答をしっかりと読み、間違えたものにはマークを付けておきます。これがここでのポイントです。

そして、2 回目には自身が間違えたものを重点的に行います。最小で 2 日、出来れば 5 日ほど時間をおくことがポイントです。こうすると大体答えを忘れていきます。このときは、辞書や参考書を活用します。ここでポイントとなるのが、間違えたものを辞書や参考書を読んだだけで理解したことにしない ということです。知らない単語が出てきたら、それをノートや単語帳にまとめたりメモをとります。文の構造が理解できなかった部分があればその部分をもう一度まとめなおします。この操作は慣れるまで時間がかかり、面倒に感じられますが、あるのとないのでは全く理解度が違ってきます。

そして、出来れば 3 回目同じ問題を繰り返します。これも寝かせておくとよいので、1 週間ほど時間を置くのがお勧めです。3 回目はやってもやらなくても、時間に余裕がないのであれば、はしょってしまって構いません。1 回目やったのと同じように行うのが重要です。そうすると 初めのころよりも成長していることが実感 できるでしょう。

この反復練習は、どのセクションにおいても同じです。

リスニングでしたら、2 回目の行為がスクリプトを見て問題を聞きなおすことになり、スピーキングでしたら、自分が納得するまで 1 つの問題を録音することとなり、ライティングでしたら、パラグラフライティングを意識して 1 つのエッセイを書きあげること になります。

4 リスニング

4.1 リスニング概要

試験時間は 60~90 分。計 6 セクションからなる。まずリスニングは 2 つのパターンに分けられます。1 つ目のパターンは、講義形式のリスニングで、質問内容は講義に関する質問となります。2 つ目のパターンは、学生生活における会話文です。例えば、教師と生徒の会話・事務員と生徒の会話・生徒同士の会話などです。このタイプのリスニングは一般的なものなので、特に TOEFL 専用の勉強は必要ありません。どちらかというと、1 つ目のタイプでキーワードとなる専門用語を聞きとれるかどうかの問題となります。

4.2 リスニング

まずリスニングで重要になるのが、どのような場面で話が展開しているかということを常に念頭に置くということです。こればかりはなんとも説明しようがないのですが、場面がどのような状況なのかをイメージしながら聞くとおもえば良いと思います。例えば、生徒と先生との会話ということが察せられるだけで、話の方向性は意外と絞られます。この察することをやる為に、場面の状況をイメージするのです。

そして、英語の音や会話の流れに慣れるというのも重要なことです。ここでお勧めなのがシャドイングです。これは、ご存知の通りある英語の音声を聞いた後、数拍遅れでその音を追いかけて続けるというものです。テキストを目で追いつながらでもテキストを一切用いないのでも、それはお好みで行ってください。これを繰り返すうちに、英語の音や会話のながれについていくことができるようになります。

お勧めのリスニング教材と言うと、TOEFLiBT 大戦略シリーズ (旺文社)のリスニング版ならば図書館でも借りられるので、これが良いのかなという気がします。

リスニングは、どちらかという良い教材と出会えることよりもどれだけ英語を聞いたのか、聞く努力をしたのかということが重要になります。何でもよいのでとりあえず聞いてみるのが良いでしょう。耳を英語の音に慣らして下さい。洋楽を聴くのも良い方法です。

4.3 実践

これは、前セクションでも述べたことなので詳しい話は割愛しますが、とりあえず3回ほど同じ問題を繰り返し試してみてください。リーディングと異なる点は、1回目のときに間違えた問題を繰り返し繰り返し聴きなおしてみたのちに、その問題を今度はスクリプトを見ないでシャドイングしてみるということです。

5 リスニング・ライティングの概要の前に!

この両者はどちらも「自分の意見を表現する」というカテゴリーに含まれています。ここで、重要になってくるのが日本語と英語の間にある「自分の意思を表現する方法」の違いです。ここで、今まであなたが書いてきた「感想文」や今まで行ってきた「スピーチ」のようにライティング・スピーキングというものを捉えているとすると、残念なことにTOEFLである程度の結果を残すことが難しくなると思います。何故かと言うと、「感想文」や「スピーチ」はある程度の流れが決まっていますが、これは「自分が何を感じたか、どう思ったか」ということに重点が置かれています。しかし、TOEFLのリスニング・ライティングで重点になるのは「私は、明確な数個の理由から導かれた、ある主張・意見を保持します。」という姿勢を示す所です。これは、自身の持っている考えが、突発的でなくきちんと筋道だつて導かれていることを示すためのものでもあります。

ここで、リスニング・ライティングセクションで最も重要なポイントは「自分の意思を表現している」ことを示すためのあるフォーマットが英語には存在する ということです。

もっと言いますと、どんなに優れた内容を述べたとしても、そのフォーマットを満たしていないと意見を述べているとみなされないのです。ライティングに関するそのフォーマットはパラグラフライティングと言います。簡単に述べるとパラグラフライティングとは、文章が質問に対する答えとその理由を簡潔にまとめたイントロダクションとその理由を具体例などを用いて解説しているボディそしてまとめとして結論を繰り返すコンクルージョンから構成されていなければならないというものです。同様なことが、スピーキングに関してもいえます。

それに関しては、TOEFLiBT 大戦略シリーズ (旺文社)のライティング・スピーキング専用の本に詳しく解説されています。図書館に入っているので、上記で述べた英語の特徴を念頭において、勉強してみてください。

6 スピーキング

6.1 スピーキングの概要

試験時間は 20 分。試験の方式は以下の 3 パターンに分けられる。(それぞれ 2 題ずつ出題される。)

- Independent Task 与えられたトピックに対して、自分の知識や経験をもとに口頭で回答する。
- Integrated Task 大学生活や講義に関する英文を読み英語音声聞く。それに関する質問に口頭で回答する。

6.2 スピーキング

スピーキングは、自力で勉強することが難しいセクションであると思います。しかし、少しは自力でも行うことができるものもあります。まず、その 1 つとしてシャドイングがあります。これは、リスニングの勉強になる上に、口で言いなおすので英語を話す勉強になります。また、ボイスレコーダーを用いて、似たような問題の解答を録音することも重要です。一度自身の解答を聞きなおすことで、自分の口頭の解答の癖を知ることができます。また、リスニングや読んだパッセージを短時間で内容をまとめるようなメモを作る訓練も重要です。これに関しては TOEFLiBT 大戦略シリーズ (旺文社) のスピーキング にて詳しく解説されているので参照してみてください。

そして、やはりこのセクションでは「英語で会話をする」という経験の有無がとても重要になってくると思います。私の場合は学校で行っている語学研修に参加させていただいたのですが、そうでない場合でも個人的に英会話教室に行くのも良いと思いますし、学校の先生に事情をお願いして英語で話し相手になっていただくのも良いかもしれません。もしくは、英語に興味を抱く友人と共に英会話の自主ゼミをたちあげてみるのも良いでしょう。

6.3 実践

これは、前セクションでも述べたことなので詳しい話は割愛しますが、とりあえず 3 回ほど同じ問題を繰り返してみてください。スピーキングにかんしては、1 回目のときに間違えた問題を、自身で作成したメモを見て制限時間内に解答を終えられるまで何度も録音して、その回答を聞きなおすということが重要です。

7 ライティング

7.1 ライティングの概要

試験時間は 50 分。試験の方式は以下の 2 パターンに分けられる。(それぞれ 1 題ずつ出題される。)

- Independent Task アカデミックな内容の英文を読み、英語音声聞く。聞いた内容の要約や読んだ内容の関わりを英文で書く。30 分で 300 字以上。
- Integrated Task 身近なトピックに関するエッセイを英文で書く。20 分で 250 字以上。

7.2 ライティング

ライティングセクションの勉強は、英作文の勉強と前述したパラグラフライティングの勉強の2つに分けられます。英作文の勉強に関しては、「英作文のストラテジー (河合塾)」をもちいて勉強することをお勧めします。これは、大学受験用の参考書ですが、とても論理的に英作文のコツをわかりやすく説明しているものです。パラグラフライティングの勉強に関しては、TOEFLiBT 大戦略シリーズ (旺文社) のライティングが非常にお勧めです。1 からパラグラフライティングに関して学べるだけでなく、たくさんの例題があるのでとても勉強しやすい物になっています。

7.3 実践

ライティングに関しては、上記に述べた本を習熟するのが最も確実で良い方法だと私は思っています。そのうえで、是非やってほしいことは、英語の先生に自身が書いたエッセイを見て添削してもらうことです。一度でなく何度でもやってみてください。先生方には迷惑になること請け合いです。だんだん書いていくうちに幾分かましになっていくのがわかると思います。

また、ライティングは習うより慣れろというような局面が結構あります。慣習的な語句の使い回しや、よく理由に使われる単語などが結構存在します。(やっていくうちにつかめてくるとは思います。) それを意識しておくだけでも、効率の良い勉強ができるかと思えます。巻末におまけで、練習として書いたエッセイを載せておくのでよかったら参考にしてみてください。(先生の添削済みだった気がしますが…、まあ、よくわかりません。)

8 最後に

長々と色々書かせていただきましたが、最後にひとことです。当たり前ですが、英語の勉強は一夜漬けでどうにかなるような類のものではないので、出来るだけ早めに準備をしていくのがよいと思います。少しでも私の経験がお役にたてることを願っています。頑張ってください!

9 おまけ

ここで、実際私が書いたライティングの解答例を載せておきますが…。絶対多くの間違いを含んでいるので、これくらい書いていけばいいやー、という目安として見てみてください。これくらい書いていけば18/30くらいのスコアはとれる…ハズ…。

Question 1

Do you agree or disagree with the following statements? Companies should hire workers for entire lives. Use specific reason and example to support your position.

I agree with the statement that companies should hire employee for entire lives. There are two reasons for this: less worry about our environment and stability of society.

First, employee can work less worry about our environment because they don't have to change companies, work environment, human relationship. In generally, to change one's surrounding brings heavy stress because it is not daily action. Trying to acclimate to new atmosphere is mentally hard work. It obstructs to show one's original talent. However, if employee can work great environment, it is possible for the employee to be able to get their satisfactory outcome. The outcome is good for their

company. As a result, to change the employee's surrounding may cause damage to the company's benefit. Thus, it is important for employees to be able to work less worry about our environment.

Second, stability of employee's life will lead stability of social economical. Our standard of living depends on our income. For instance, if we don't have economic stability, we cannot enjoy buying car, traveling, eating delicious food etc. In addition, most of today's economy is supported by consumer spending. Our standard life more or less consists of purchase. For example, if you want to cook something, maybe you will go shopping to buy materials. As a result, it is no doubt that stability income is able to put into economical activity. In other words, if consumer's spending increases, our economy becomes better. The key to the increase of consumer's spending is, as stated above, life standers. As a matter of course, an employee is a customer. If a company can hire workers for entire lives, they get stable income from the company. For this reason, customer can do economical activity. Moreover, increasing consumer spending is based on stability of social economic. Therefore, I think that standard of living lead stability of the society.

For these reasons, I think that companies have to employ workers for entire lives because of less surrounding worry and stability of society.

Question 2

Some people believe that we receive our most basic education at home. Other believe that the moose important things are learned at school. What is your opinion?

Although some people think that students do not have to study at School, I'd like to recommend that student should study at school. There are tow reasons for this: social and evolution of human being.

First, schools play a great role to train children in the range of sociability. There are no doubt that school is a place where students learn how to take part in society. If students didn't come to school, they couldn't know the way to get along with other people. In school, there are many kinds of people such as teacher, same age children, elder children, and so on. To try to keep good relationship with such people gives students a lot of experiences. For example, some students may get good friends ,on the other hand, another students may face some problems such as quarrering. Some people think human relationship is too difficult for children to keep better. However, it is fact that we have to live in society to try making better surrounding by oneself even if there is a person who are unfair. This is an inevitable fact.

Second, school is a place to inherit human knowledge by next generation. Of course, only studying can do ourself at home. However, it doesn't work a function to inherit our knowledge or wisdom. The reason that human being can attain today's development is sharing our knowledge with generation by next generation. If we lose such a function, what will happen in the future? Human being may lose our indispensable feature. Moreover, comparing with each others is an essential term to try to lead great development. A good rival draw out truly talent. In fact, school gives more opportunity for students to meet a good rival because there are many people.

All of these reasons, I think that students have to study at school because school not tells us how to live in society but leads innovation of human being.